

1 . 評 価 結 果 概 要 表

作成日 平成19年 10月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	0170401277		
法人名	医療法人 尚仁会		
事業所名	グループホーム「西まち」		
所在地	札幌市西区西町北8丁目1-25 (電 話) 011-661-5531		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	平成19年10月15日

【情報提供票より】(19年8月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算	13.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	2~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000~58,000 円	その他の経費(月額)	20,000~25,000 円
敷 金	(有) 55,000~58,000円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(8月29日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	0	要介護2	7
要介護3	4	要介護4	4
要介護5	3	要支援2	0
年齢	平均 86.1 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西町内科クリニック・ポテト歯科医院・手稲あんじゅ・手稲ロータス・真栄病院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所の1階にはクリニックが併設され、経営者は医師で管理者は看護師ということもあり、医療面が充実している。また、重度化に関する方針の取り決めや看取りの経験もあり、利用者本人と家族の安心に繋がっている。3ヶ月毎に家族会が開催され交流する機会が多く、良好な関係が築かれている。事業所では運営推進会議を盛り込んだ年間行事が組まれており、地域と連携が取れるよう努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題を踏まえて緊急時対応の研修を実施し、改善に取り組んでいる。また、トイレの表示に関しても即座に改善して利用者の混乱が無くなり、成果が表れている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で各項目について話し合い、検討を繰り返し自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議において地域との関わりについて具体的に検討し、町内会と協同して事業所の行事や消防訓練を実施している。会議開催回数を重ね事業所への理解が深まり、ますます密に連携が取れてきている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月事業所便りを発行しており、利用者の健康状態や暮らしぶりを載せた報告書と併せて家族に送付している。また、来訪時に職員は家族に積極的な声かけをし、意見・要望を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣には商店や会社が多く、交流が取りやすい恵まれた環境に位置している。また、町内会や老人クラブに加入し積極的に近隣住民と交流する機会を設けており、事業所への理解が深まるよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔・安心・個性」を盛り込んだ事業所独自の理念をつくりあげている。	○	今後、地域との関係性をより重視した理念を盛り込んでいく取り組みが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に理念を確認しており、日々のケアサービスにおいて実践に向けて取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人クラブに加入し積極的に行事に参加しており、地域との交流を図っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月に2回開催している勉強会で評価項目を見直し、前回評価の改善点を確認し合いながら全職員で自己評価に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間計画に4回の運営推進会議開催を盛り込み、地域との連携を図っている。会議を重ねるごとに理解が深まり、地域と合同で夏祭りが開催された。さらに地域の協力の下、防火訓練の実施予定も検討中である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の連絡会議に参加したり行政へ定期的に事業所の運営状況等についての報告をしており、情報を共有しケアの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月事業所便りを発行し、家族に送付している。また、利用者一人ひとりの介護計画を分かりやすくまとめて報告している。さらに、3ヶ月に1度家族会を開催し、利用者の暮らしぶりや健康状態等を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当事業所は家族会を設けて職員と家族が接する機会を多くもち、意見・要望を伝えやすいよう工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動があった際は利用者と職員が顔馴染みになれるよう配置に配慮し、ダメージを防ぐよう支援している。また、しばらくの間夜勤帯は2人体制を取るなど工夫している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に2回内部研修を実施しており、事業所の課題を確認しながら改善に向けて取り組んでいる。また、事業所が参加費負担による外部研修にも積極的に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム協議会企画による他事業所見学会に参加して同業者との交流を図り、共にサービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時に管理者が利用者本人・家族を訪問し説明を行っているが、利用者本人・家族の事業所見学等はなく職員と事前に顔を合わせる機会は設けられていない。	○	今後、事前に見学や体験利用を行って職員と顔馴染みになり、本人・家族が納得してからの入居となるよう工夫することが期待される。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの個性を大切にして家族として暮らし、支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴やアセスメントシートを把握して意向・思いを汲み取るよう努め、利用者本位となるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者に寄り添いながら課題を検討し、本人・家族を交えて話し合い、意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行っており、利用者の健康状態に変化があった場合はそのつど話し合い、新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望に応じて外出先への送迎や通院への付き添いなど、柔軟な支援を実践している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の1階には内科クリニックが併設され経営者は医師であることからいつでも受診が可能であり、利用者本人・家族の安心に繋がっている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「重度化した場合の対応に関わる指針」について説明し、同意を得られると「看取り介護についての同意書」を取り交わしており、方針の共有が図られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーを損ねることのないような対応を心掛けており、一人ひとりの誇りを大切にしたい声かけや支援が行われている。また、事業所便りへの写真掲載については了承を得てから載せている。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴や力に応じ、その人らしい暮らしとなるよう支援している。また、体操や合唱など集団での楽しみ事への支援も実践している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を採り入れた献立が組まれ、盛り付けにも工夫がなされている。また、ユニットごとに食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で利用者と職員がともに食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた週に2回の入浴支援を行っている。また、浴室は利用者が楽しく寛いで入浴できるよう広々として明るく、安全面に配慮した造りになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や力に合わせて暮らしの中で役割ごとを分担し、張り合いに繋がるよう支援している。また、役割・楽しみごとを介護計画に盛り込み、細かな取り組みを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の行事計画が立てられており、送迎の車を用意し戸外で楽しめるよう支援している。また、家族・地域住民にも声かけをし、外出行事に参加してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由から夜間は施錠しているが、日中は鍵をかけておらず開放的である。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、クリニックと合同の防災訓練を実施している。また、町内会と合同での自衛消防訓練を実施予定である。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の希望を採り入れながら職員が作成している。しかし、献立を栄養士が確認するまでには至っていない。	○	今後、連携する関係機関から協力が得られるよう働きかけ、献立を確認してもらうことが期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂の共用空間は広々として明るく、利用者が過ごしやすいような空間となっており、利用者は歌ったり話したりと思い思いに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備え付けであるが、馴染みの家具や調度品などが持ち込まれており、利用者が落ち着いて過ごせるような場所となっている。		

 は、重点項目。